

博士前期課程（修士） / 実践看護学領域 / 子どもと家族の看護学分野

科目コード：230010

# 子どもと家族の援助論 Health and Welfare for Child and Family

担当教員	西村 真実子、金谷 雅代、松井 弘美、高橋 久子、羽場 美穂、柿沢 有希子、工藤 淳子				
実務経験					
開講年次	1年次後期	単位数	2	授業形態	演習
必修・選択	選択	時間数	30		
Keywords					
学習目的・目標	科目のねらい 目的：複雑な問題を抱える困難事例（健康障害をもつ子どもの事例で、関わる人々＝子ども・家族・医療者等—の間の意見・考え・感情を調整する必要がある事例、倫理的葛藤がある事例等）の検討を通して、クリティカルシンキング能力、エビデンスに基づいたアセスメント能力、問題解決能力を養う。 目標： 1）事例の分析過程において、高度実践に必要な注目すべき情報群、問題の原因や背景にある関連状況、子どもの病気の病態生理等を統合させ、多角的に理解することを学ぶ。 2）専門看護師に求められる「高度実践・教育・相談・調整・倫理」の各機能とその専門性について、事例検討を通して理解を深める。				
授業計画・内容					
回数	授業内容				
1	小児看護における専門看護師の機能(高度実践、教育、相談、調整、研究、倫理)				
2	専門看護師の高度実践、調整機能の実践事例*1				
3	慢性疾患の事例（1型糖尿病、ネフローゼ症候群、慢性腎不全など） 専門看護師の高度実践、調整機能の実践事例*2				
4	慢性疾患の事例（先天性心疾患、喘息、アレルギー性紫斑病など） 専門看護師の高度実践、調整機能の実践事例				
5	慢性疾患の事例（小児がんなど）				
6	先天性疾患をもつ子どもとその家族への高度な看護実践：ダウン症など 専門看護師の高度実践、調整機能の実践事例				
7	外科系疾患（胆道閉鎖症、脊椎側弯症、口唇口蓋裂、骨折など）				
8	小児救急における事例のアセスメントと援助：呼吸障害・発熱・発疹・腹痛・頭部打撲などの症状からの正常・異常の判断など ハイリスク新生児とその家族への高度な看護実践：生命維持、痛み、成長・発達(あるいはデベロップメンタルケア)、親子関係促進 などに関して複雑な問題をもつ事例				
9	小児看護における倫理的問題				
10	専門看護師の倫理機能の実践事例*3  点滴や内服の拒否、抜管の恐れのある子どもの抑制、子どもへの検査や処置の説明に親が戸惑う場面など 小児看護におけるコンサルテーション				
11	小児事例を例にして、コンサルテーションのプロセス、問題のアセスメント、問題の明確化、活動の意味付け、コンサルテーションの方向性の提示、課題提示、目標設定、人的資源の活用可能性、意思決定のサポート、サポート体制の整備、直接ケア技術の具体的提示等				
12	専門看護師のコンサルテーション機能の実践事例*4				
13	専門看護師・教育機能の実践事例				
14	看護研究指導、研究会等の講義案作成など ホームワーク事例についての検討  上記の*1,3,4の講義後に出されたホームワーク事例についての院生全員の「アセスメント、援助計画」内容を共有し、質疑応答、コメントを行う。				
15	ホームワーク事例についての検討  上記の*2の講義後に出されたホームワーク事例についての院生全員の「アセスメント、援助計画等」内容を共有し、質疑応答、コメントを行う。				
教科書					
参考図書等	随時紹介する。				
評価指標	1. 出席状況・授業への参加状況 60% 2. ホームワーク事例 40%				
関連科目					
教員から学生へのメッセージ					